C.P.I.Mates おおきな かぞく
2009-12
No. 7

認定 NPO 法人 C.P.I 教育文化交流推進委員会

発行所: C.P.I.インドネシア事務所

Jl. Manpang Prapatan XV No.10 Jakarta-Selatan

本 部: 東京都三鷹市中原 2-16-9 Tel. 0422-49-3808 E-mail: cpimate@gmail.com

URL: http://www.cpi-mate.gr.jp/

本誌P3で寄付依頼を致します

12周年を迎えた能力開発センター

チアンジュールに、新校舎を建設首都ジャカルタから近い

チアンジュールの能力開発センター は、1997-1998年にかけて、日本 政府の草の根無償資金でC.P.I.と PPKIのJの共有施設として建設され ました。これまでに、看護教育、コミ ユニティカレッジ、語学教育、養殖 実践教育、養鶏実践教育、食品衛生 教育、食品製造実務教育、スポーツ 大会の会場、村落青年委員会の合宿、 ダンス等文化教育の場として、独立 採算で役割を果たしてきました。 今年、恒常的な活動を行う正規の総 合実務高校が新たに発足しました。 教師は22名、初年度生徒数125名で 出発するこの高校は、協力会社と連 携しつつ、地域青年の就職安定を目 指してコミュニティカレッジの性格 をもつ、新しいタイプの高校として 注目されています。



ま新しい制服姿の教育里子たち



2010年2月に竣工予定です

建設の全面支援を受けまし青年活動&スポーツ省から

生徒のうちには、教育里子が30名います。新しく建設されている校舎には、 「青年活動&スポーツ省」の全面的な

「青年活動&スポーツ省」の全面的な 資金支援を受けることができました。 昨年(2008年) C.P.I.の小西会長が、

「"自分たちの施設を愛する"意識をもった学生を置くならば、施設が活きる」と励まし、新しい学校建設を提案してから、わずか一年で実現しました。『青年の新たな結集による新生国家を目指す』とのインドネシア政府の考えと、C.P.I.の活動方針が合致したことの成果です。なお従来の建物は、日本政府の支援施設であるとの理由で同省からの増設支援対象とならず、目下、現地日本大使館に、支援を要請中です。

インドネシアのパートナーPPKIJは、 《YAYASAN》の国家資格をとりました

YAYASAN とは、長期にわたる社会公益活動と会計の明瞭さを要求される、インドネシアの、公益法人としての国家資格です。今年、C. P. I. と PPKIJ は、共同で次の活動を行っています。

教育里子への奨学プログラム/継続

教育里親からの支援

現地政府・内務省との協働

青年対象の能力開発プログラム/継続

日本ーインドネシア青年交流/再開

旧本の協力機関・団体との連携

|現地政府・青年活動省との協働

日本インドネシア文化交流/再開

被災住民への支援プロジェクト/ 継続

2009年、日本折紙協会と連携

インドネシア女性団体と連携

在イ日本人ボランティアと連携

日本でのチャリティ催事を実現/継続

実行委員会を組織して実行

日本折紙協会と協働したワークショップ





日イ市民協力フェスティバルを主管



ローカルリーダー

教育里子への奨学事業



日本での能力開発に係る調査に協力

2006 年中部ジャワ・2009 年スマトラの地震に係ること

日本折紙協会およびインドネシア女性会議(KOWANI)との共催で、2009年10月2~4日、 インドネシアで初めての日本折紙フェスティバルを行いました。将来、女性の教育里子卒業 生の自立活動として「折紙教室の運営」を協働したい、との企図をもって共催しました。 同時に、在インドネシア日本人の皆様およびインドネシア女性組合の協力を頂いて、中部ジ ャワ・スマトラの地震被災で男手をなくした母子家庭救援を能力開発で行う活動を行うべく、 日本折紙協会の編纂による折紙テキストの学校頒布(インドネシア語を含む4カ国語版)を 目標とした寄付集めを、日本・インドネシア両国で開始しています。**※下段で募集します**



(現地日本人向けの日刊紙・ジャカルタ新聞 10 月 3 日号に掲載)

婦人活動推進を担う お二人と記念撮影を された日本の塩尻大使

10月2~4日にジャカルタのスナ ヤンシティホールで行われたこ の行事に出席された在イ日本大 使の塩尻孝二郎氏は、「折紙は一 枚の紙から作る芸術。日本文化の 魅力を味わい、教育面でも役立て て頂ければ嬉しい」と話された。

ちょうど時期を同じくして開 催されたジャカルタ日本祭りの 先陣を飾る形となった日本折紙

フェスティバルは、在イ ンドネシアの日本人の皆 さまにも好感を持たれ、 C.P.I.と PPKIJ の活動の新 しい展開にとって、幸先 よいスタートをきること ができました。また、日本 折紙協会は、今後、C.P.I. の活動に協力して下さると のことで嬉しい限りです。



本折紙

協会編纂)

教育里

字の

学校および協力校、

計 1,000 校を

て頂きます。

[標に

頒布を行



冊 1,500 円です

キスト 記 を行います。 入頂 0 き、 国内郵送または現地 お振込み下さい

封 \mathcal{O} 郵 便 振 込み申込

母子家 力を 4本折 た 領 動 Ρ ドネシアの で申込をお願いします。 にご協力を頂きたく、 の会員 同協賛寄付 、戴けることになりました。 紙協会、 庭の救援活動を行い 経費を除く全額をもって、 0 皆様には、 日本の方々からご 現地女性団 冊千五百円 以 この ・ます。 体 在

協 力 お願

インドネシア語を含む四カ国

語版

の高い

折紙 を、

テキスト

日

まずは、2006年中部ジャワ地震に係る

母子家庭救援で住民代表と協議

C. P. I. の被災救援は、教育里子のいる地域における緊急救援、教育里子家庭の被災復旧、ならびに、PPKIJからの、『住民の中で政府・国際機関の支援を得られているか否かの調査』に基づく支援要請を検討してから、行われます。現在、まず進めようとしているのは、2006年に発生した中部ジャワ地震被災後に、国際支援から取り残されている母子家庭への救援です。教育里子の卒業生の中には、このプロジェクトに参加したい人々が育っています。

取り組みの経緯

C.P.I.と PPKIJ は、会員の皆様ご存じのとおり、2006年の中部ジャワ地震の被災地救援では、いち早く救援物資を送り、教育里子家庭で家屋全壊した25家庭に対する復興プロジェクトを行いました。その後、必要となったのは、幼い子供たちのトラウマに対する医療と、母子家庭となった民衆の状況把握でした。

前者は、日本赤十字社が2008年 まで救済活動をされて、救援期限 がきて撤収したと聞いています。 後者については、土地なく、援助 者なく、技能をもたない女性の家 庭が、最貧の状態から抜け出せないことがわかりました。これは、 男手が病気などにより無いに等しい家庭を含みます。

約 1000 世帯を救援したい

そこで、C.P.I.は、これらの家庭を、能力開発により救援したいとのYAYASAN PPKIJ からの要請を受け、今年、日本での日本インドネシア市民協力フェスティバルを「母子家庭救援チャリティ」として、幹事役を行いました。そして、その催事での呼びかけを皮切りに、資金集めを開始しまし

た。最初のパイロットプロジェクトの目標を300万円におき、まずは日本内の催事で317,131円が、 寄付金として集まりました。



現在、インドネシア語を含む4カ 国語版の(日本折紙協会編纂・協力)折紙テキスト頒布を通じての 資金集めに取り組んでいます。

母子家庭リーダーとの話し合い

共同調査を行ってきた女性組合 (KOOPWANI) と、母子家庭教 援の方法につき相談する中で、まず「単なる資金援助ではダメ」で一致しています。対象の1000世帯に、例え一家庭当たり1,000,000ルピア(1万円)を渡しても、最低生活でも、一ヶ月半の生活費にしかなりません。ですから、生産に係る能力開発を行い、組合のネ

ットワークで確実に生産物の販売につなげるべきだとの結論に達しています。パイロットプロジェクトの地域として、中部ジャワ州・バントゥールの母子家庭、約200世帯を選んでいます。予算は300万円ほどを考えています。最初は小規模に初めて、方法をきちんと確かめてから、対象となる住民の中からリーダーを選び、住

民自身がプロジェクトを推進で きるようにしていくのが、長期的 にみて、最も効果的なやり方です。

全対象 1000 世帯へのプロジェクトとして広げるときは、生産から販売のルートを確立できていることが前提ですから、パイロットプロジェクトは、それを目標に行う必要があります。



母子家庭リーダーのトゥティさん

「いままで、政府にも何度も救済 をお願いしてきました。

でも、能力開発だけですと予算が

小さすぎて政府の仕事から外れ てしまうのです」とのこと。

「C.P.I.のやり方を導入して頂け るのは、勇気がわきます」と、母 子家庭リーダーのトゥティさん。 文字どおり血のにじむような努 力をしてきたこの人は、

「いまの目標は、キャッサバ農業 と、小規模工業を組み合わせた形 をつくりたいことです」 と抱負を語ってくれました。 トゥティさんは、また、「若い

人たちからは手工芸品の生産と 販売ルートの確立も望まれてい る」と言います。

C.P.I.と PPKIJ は、女性組合の力 を借りて、それらを実現させたい と考え、まずは、チャリティ資金 でパイロットプロジェクトを成 功させたいと考えています。 そのうえで、日本政府の力も借り たいと思い、各方面と話し合いを 進めています。

応援をお願いします。

教育里子卒業生の声は、大きな励まし

ボゴールのラティさん (ボゴール大学講師)、 スマランのシアムさん (ディポネゴロ大学修士) など、社会開発学を学んだ教育里子卒業者たちや、 農業経営を学んでいる大学生たちは、

実践として、プロジェクトに参加したいとのこと。 「研究生活も大事だけれど、貧しい中でも、C.P.I. のおかげで頑張ることができた」

「私たちは、社会にお返しをする機会を持ちたい」 と、気持ちの強さを表してくれます。

そのような卒業生たちと手を組んでいくことは、 これからの C.P.I. にとって、とても大切なことです。





ラティさんは、PPKIJの推薦枠で、本年の日本丸による研修生に選ばれました

在インドネシアの日本人会および技能専門家とのボランティア連携を進めます

C.P.I.は、さらに、インドネシアに 住んでおられる日本人の方々と の連携を進めようとしています。 2008年11月に、ジャカルタの中 心部に、「市民協力、集いの場」 と名付けた新施設を開いて以降、

力してきました。

母子家庭救援は、在住の日本人ののひとつであると考えます。 技能者の方々、マーケット協力を してくださる方々との連携をつ くるよい機会です。

積極的に連携を行えるように努 公益活動を実践したい人々を広 く結集することは、C.P.I.の、使命

青年を育てる教育文化交流

小西会長がすべての地域の教育里子と懇談

今回の懇談会では、それぞれの学生から教科成績以外に里親さんに伝えたい ことを聞き、また、以下のような本音の要望を話し合うことができました。

(会長からの報告)

里子の地域を知ってほしい

教育里親さんは、ご自分の受け持ち里子だけに気持ちがいきます。 私は、教育里子を考えつつその子どもの住む地域に興味をもって頂けたら、もっと楽しくなるのにと考えています。

今回、教育里子たちと話し合い、 受け持っていただいている地域 の里子たちからの気持ちを込め た署名入り集合写真を、教育里親 さんに、地域それぞれからお送り することとなりました。

本誌に同封してお送りします。

私たちは、ジャワ島だけで奨学 支援をしていますが、民族や言語 の違いでそれぞれ特徴がありま す。ジャカルタとボゴールの学生 は首都圏にいる利点と悩みがあ ります。チアンジュールとスカブ ミは、ジャワ島内でも特にイスラ ム色が強い地域です。バンドンを 中心としたスンダ民族は 2000 万 人以上の人口を抱え、工業や芸術 に強みがあります。ジョグジャカ ルタ、ソロ、スマラン、ブミアユ といった中部ジャワの地方は、柔 らかい物腰の中に、伝統産業を守る気概が感じられます。スラバヤ 以東のマラン、ジュンベールといった地域は、新しい産業を興す気 持ちに溢れています。各地の特色 に興味を持つと、楽しいですよ。

里親のこと、もっと知りたい

現在、教育里子からの手紙の到着率6割ほどに対して、里親さんからの手紙は1割ほどです。言葉を連ねるよりも、一枚の写真、一枚の絵はがきで十分に里親側の様子は伝わります。C.P.I.本部が用意している、日本の月々の様子を知らせられる歳時絵はがきや、里親一里子お互いの様子を知ら

里栽一里子お互いの様子を知らせる記入式インタビューの交換に、ご協力いただけたらと思います(翻訳ボランティアの皆さんも頑張っています)。 ちなみに、教育里子からのインタビュー回収は9割を超えています。

C.P.I.の奨学制度は、お金だけではなく、様々な励まし活動を特徴にしています。里親里子が互いに様子を知ることは大切なことです。

日本の若者と交流したい

奨学生に対して、私が常に話して いることがあります。

高い能力を身につけるだけでなく、連絡を早くできるようになること、約束は責任を持って果たすこと、時間を守ること、万一遅れるときは早めに伝えること、です。こうしたことを言い続けた結果として、「日本の若い人々と交流して、日本人のよいところを学んでいきたい」との要望が強く出ています。

里子たちの要望に応えるべく、日本の若者たちへ直接呼びかけるため、ロハス・ステューデントニュースという学生向けの新聞に連載を始めました。よい芽がでることを期待しています。



インドネシアの学生に紹介

「日本の技能を学びたい」との要望に応えたい

教育里子の高校卒業生で、 中規模工場に技能者として頑 張る教育里子を励ましたい

これまで、彼らに係るプログラム はありませんでした。彼らのうち、 技能の革新に頑張っている人を 選び、政府表彰を含めた勇気づけ のためのプログラムは、資金的な 問題で発足できずにきました。

技能奨励会を発足させます

本年度、C.P.I.会員の中西正美さまからお申し出があり、インドネシアで左記のプログラムを発足できる目処がついてきました。理事会は、寄付者名称を冠に付した技能奨励会を、C.P.I.内に置くことを議決しました。さらに、日本の高度な技能を来日継承させ

るパイロットプロジェクトを、3 年間、試行することとなりました。 インドネシアの青年活動省にあ る『青年の自立を推進する機関』 および、日本の関連機関と連携し つつ、慎重に進めたいと考えます。 「日本の技能を、学びたい」との 教育里子卒業者からの要望に応 える活動となります。

インドネシア政府[青年活動&スポーツ省]と協定

青年の自立に向けた技能学習の協働推進およびスポーツ交流について、C.P.I.と 青年活動&スポーツ省は、日本—インドネシア両国の窓口として協定を致しました。

日

年

スポ

ツ交流

協

力

ま

これまで、中規模工場の技能者(技術者ではない)や、農業革新を図りたい者、 漁業革新を図りたい者の日本研修において、研修先と研修生との間で、様々に問題が発生していることが分かっています。 とくに、生活慣習や作業環境整備に係る、 問題の根は、想像以上に深いものです。 C.P.I.は、インドネシア政府・青年活動& スポーツ省から、事前研修を含めた円滑化につき、相談をうけました。



埼玉県での有機農業研修の様子

また、現場での技能改善に熱心な青年を奨励し、 さらに長期の技能習得を日本で行うプログラムの 候補者選考、事前研修などを協働で行うことを話 し合いました。そして、今回、同省青年自立推進 局との約定を行い、青年に対する能力開発の一環

として協力を進めることで合意致しました。



また、日本とインドネシアの青年交流について、インドネシア日本友好協会のゴーベル会長と会談を行い(上の写真)、その後、青年活動&スポーツ省からの、2010年からスポーツ分野でもより交流を広げたい意向を受け、当会の中山廣明評議員のご協力を得て日本バトミントン協会と協議中です。



インドネシア 現地事務所から



C.P.I. & PPKIJ

活動資金

- ・教育里親から教育支援金
- 寄付金
- · 財産運用収入

C. P. I. 本部

PPKIJ

- 奨学活動
- 能力開発
- 青年交流
- 文化交流
- 他プロジェクト
- ・プログラム
- 施設運営



青年の自立、貧困救済、市民協力の推進

ジャカルタ事務所を、これからどのように運営していくのか、C.P.I.の、インドネシア内・カントリーマネージャーのヌールシさんに、話を聞きました。 日常業務を取り仕切るのは彼女だからです。

こんにちは。私は、ウチと呼ばれています。

子ども時代に、ヌールシと発音できずに、自分ではウチと言っていたので、いつの間にか呼び名となってしまいました。ですから、どうぞ、ウチと呼んでください。

私は、1993年から、PPKIJの主事をしてきました。
PPKIJが、国からYAYASANの資格を戴くとき、それまでの理事長および事務局長のお二人が、政府の要職にありました。インドネシア政府は、国の要職にある方が、民間の公益法人の責任者を兼ねることを禁じています。
そこで、私が PPKIJ のディレクターに就き、C.P.I.のカントリーマネージャーを兼ねることになりました。それまでのお二人、マルタニさんとスダルソノさんは、顧問として、私を支えて下さることになりました。

ですが、お二人の存在があまりに大きかったので、責任の重さは大変なものがあります。

ところで、私は、中学生のときから、学費を自分で稼ぐよう両親から躾けられていました。それで、服の仕立て、 縫製を習わせてくれと両親に頼み、その勉強のおかげ で学費を稼ぐ道を自分で拓きました。その経験から、学 校の勉強だけでなく、自立のための能力開発を行うこと の大切さを、よく知っているつもりです。

C.P.I.の小西会長が、PPKIJの提案を入れて下さり、 1997年に日本政府と交渉して、能力開発センターの建 設に手を貸して下さり、今年もまた新しい校舎建設に係 る交渉をインドネシア政府青年活動省と行うについて、 骨折ってくださったことに感謝しております。

能力開発は、PPKIJにとりまして、教育里子への支援プログラムと並ぶ、大切な活動です。とくに地方の青年たちを助けていかなければなりません。C.P.I.と PPKIJの、ジャカルタとチアンジュールの施設は、地方の青年たちが活動する拠点として、きちんと機能する必要があります。そのために必要な整備や職員教育を、頑張って一歩ずつ、進めていきたいと思います。ご理解とご協力を宜しくお願いします。